

# 令和4年度 農作物病虫害発生予察3月月報

令和5年(2023年)4月5日  
山口県病虫害防除所  
山口県農林総合技術センター

## I 気象概況

アメダス山口県山口地点

月・半旬	気 温 (°C)								
	平均			最高			最低		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
3.1	7.4	7.4	0.0	14.4	13.1	1.3	1.5	2.3	△ 0.8
3.2	11.6	7.8	3.8	20.4	13.8	6.6	4.2	2.6	1.6
3.3	11.3	8.5	2.8	18.6	14.7	3.9	4.2	3.0	1.2
3.4	12.2	9.3	2.9	19.0	15.5	3.5	6.6	3.8	2.8
3.5	15.4	9.9	5.5	19.2	16.0	3.2	12.0	4.4	7.6
3.6	12.1	10.7	1.4	19.7	16.8	2.9	5.8	5.2	0.6
平均・計	11.7	8.9	2.7	18.6	15.0	3.6	5.7	3.6	2.2
月・半旬	降水量(mm)			日照時間(h)					
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
3.1	11.5	21.0	△ 9.5	31.9	23.1	8.8			
3.2	0.0	22.3	△ 22.3	37.0	24.3	12.7			
3.3	14.5	23.5	△ 9.0	42.6	25.6	17.0			
3.4	7.5	25.4	△ 17.9	27.2	26.2	1.0			
3.5	27.0	25.8	1.2	10.1	26.5	△ 16.4			
3.6	7.0	29.8	△ 22.8	43.9	33.0	10.9			
平均・計	67.5	147.8	△ 80.3	192.7	158.7	34.0			

## II 作物の生育状況

- コムギ : 生育は順調で、出穂期は概ね平年並みの見込み。一部でやや出穂の早いものがある。
- イチゴ : 年明け以降、日照時間は平年並みで推移していたが、3月以降増加し、生育も昨年と比べて旺盛に推移している。かおり野は概ね第4番果房を収穫中で順調に推移している。
- タマネギ : 2月以降、気温が平年に比べ高めに推移しており、生育は平年に比べ旺盛に推移している。

### Ⅲ 病害虫の発生状況

#### 1 普通作

2023年3月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
コムギ (調査ほ場数:17) うどんこ病、縞萎縮病、さび病類	下旬の巡回調査では、発生は認められず 平年並みであった。	—	—
黄斑病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平 年13.7%)、発病茎率0%(平年5.8%)、 発病度0(平年1.4)で平年に比べ少なかっ た。	—	—

#### 2 果樹

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
カンキツ (調査ほ場数:19) そうか病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5% (平年2.5%)、発病葉率0.1%(平年 0.1%)で平年に比べやや多かった。	県内全域	少 111
かいよう病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5% (平年14.6%)、発病葉率0.2%(平年 0.9%)、発病度0.0(平年0.3)、発病葉枝 率0.7%(平年1.3%)で平年に比べやや少 なかった。	県内全域	少 111
ミカンハダニ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.8% (平年18.1%)、寄生葉率1.1%(平年 1.1%)で平年並みであった。	県内全域	少 170
ナシ (調査ほ場数:8) 黒斑病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率12.5% (平年28.0%)、発病枝率0.3%(平年 0.3%)、発病芽率0.1%(平年0.1%)で平 年に比べやや少なかった。	県内全域	少 9

#### 3 野菜

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
イチゴ (調査ほ場数:20) うどんこ病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.0% (平年9.1%)、発病株率3.2%(平年 1.3%)、発病葉率0.2%(平年0.5%)、発 病果率0.5%(平年0.2%)で平年に比べや や多かった。	県内全域	少 15
灰色かび病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0% (平年15.1%)、発病株率1.8%(平年 1.5%)、発病果率0.2%(平年0.3%)で平 年に比べやや多かった。	県内全域	中 10 少 10 計 20
菌核病	下旬の巡回調査では、発生は認められず 平年並みであった。	—	—

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)	
イチゴ アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.0% (平年20.6%)、寄生株率2.4% (平年1.5%) で平年よりやや多かった。主要種はワタアブラムシであった。	県内全域	少	15
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率25.0% (平年43.1%)、寄生株率4.2% (平年15.6%) で平年に比べ少なかった。主要種はナミハダニ、カンザワハダニであった。	県内全域	中	5
			少	20
			計	25
コナジラミ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.0% (平年34.0%)、寄生株率0.7% (平年7.6%) で平年に比べ少なかった。主要種はオンシツコナジラミであった。	県内全域	少	5
アザミウマ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率85.0% (平年30.7%)、寄生花率14.4% (平年3.1%) で平年に比べ多かった。主要種はヒラズハナアザミウマであった。	県内全域	甚	35
			多	5
			中	35
			少	10
			計	85
タマネギ (調査ほ場数:28) べと病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率7.1% (平年5.7%)、発病株率0.1% (平年0.5%)、1a 当たり調査では、越年り病株 (一次感染株) の発生ほ場率7.1% (平年9.3%)、発病株数0.2 (平年1.7) で平年に比べやや多かった。また、3月9日～14日の県内一斉調査 (161ほ場) では、発生ほ場率21.1% (平年11.3%)、1a 当たり越年り病株 (一次感染株) 数5.3 (平年2.2) で平年に比べやや多かった。一部連作ほ場で多発生が認められた。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率7.1% (平年5.7%)、発病株率0.6% (平年0.4%)、1a 当たり調査では、越年り病株の発生ほ場率17.9% (平年11.8%)、発病株数0.4 (平年0.7) で平年に比べやや多かった。 3月9日、周南市で二次感染株の初発生を認めた。	県内全域	少	13

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
タマネギ 白色疫病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年3.9%)、発病株率0% (平年0.8%)、1 a 当たり調査では、発生ほ場率3.6% (平年8.2%)、発病株数0.0 (平年11.7) で平年並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年5.7%)、発病株率0% (平年0.4%)、1 a 当たり調査では、発生ほ場率0% (平年11.8%)、発病株数0 (平年4.3) で平年並みであった。	—	—
腐敗病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年3.2%)、発病株率0% (平年0.1%)、1 a 当たり調査では、発生ほ場率10.7% (平年10.4%)、発病株数0.2 (平年0.4) で平年並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率3.6% (平年3.6%)、発病株率0.1% (平年0.3%)、1 a 当たり調査では、発生ほ場率10.7% (平年15.4%)、発病株数0.1 (平年1.4) で平年並みであった。	県内全域	少 6
ボトリチス属菌 による葉枯れ症 (白斑葉枯病)	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年0.4%)、発病株率0% (平年0.0%)、発病度0 (平年0.0) で平年並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年0.7%)、発病株率0% (平年0.0%)、発病度0 (平年0.0) で平年並みであった。	—	—
さび病	中旬の巡回調査では、発生は認められず平年並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年0.4%)、発病株率0% (平年0.0%)、発病度0 (平年0.0) で平年並みであった。	—	—
軟腐病、萎黄病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認められず平年並みであった。	—	—

お問い合わせ先

TEL (0835) 28-1211 (代表)

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp